



前号では、活動報告として委員会質問の内容をご紹介しましたが、今回は国会活動を通しての成果について、一例を挙げてご紹介したいと思います！

国会活動報告 Achievement

暫定二車線とは？

日本の高速道路は4車線以上を基本に計画をしているが、ネットワークの早期整備の観点から、一部を暫定的に2車線で工事。同区間の大部分は上下線をラバーポールで区分する構造となっているが、反対車線への飛び出し事故が発生するなど安全性の課題が指摘されてきた。

昨年5月9日の参議院決算委員会で、高速道路の暫定二車線(片道一車線)区間において、重大事故が多く起きている件について取り上げ、改善を求めました。そうした活動も手伝い、国土交通省は「**高速道路の正面衝突事故防止対策について～命を守る緊急対策。ポールからロープへ～**」をプレスリリースし、平成29年度から中央線部分にワイヤロープの設置検証を始めることになりました。

<参議院決算委員会でのやりとり(抜粋)>

高速道路の中央分離帯のような立派なものを設けることは難しいかもしれないが、**今のラバーポールよりも少し安全性の高い簡易的な柵があるのではないか**。そうした検討を今後進めていただきたい。



<国土交通省としての新たな取り組みポイント>

- ワイヤロープ設置の適用性を検証
⇒全国暫定2車線区間約1,070km(土工区間)の内、約100kmで今春から設置検証。
- 技術的提言を得るために、「技術検討委員会」を設置
⇒2016年12月26日に第1回委員会を開催
- 橋梁やトンネル等区間における安全対策技術を公募

<暫定二車線区間の死亡事故の現状>

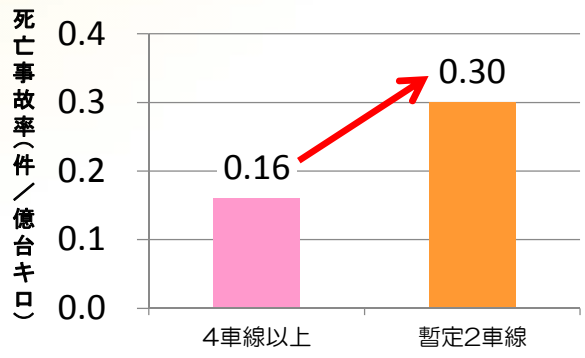
暫定二車線の高速道路の**死亡事故率は、4車線以上の高速道路の約2倍!**
会計検査院の報告書では、死亡者数がおよそ40倍違うといった数字も。



暫定2車線区間



反対車線への飛び出しによる事故事例(H28.10.5 道央道)



※有料高速道路(H25年統計)

ラバーポール(現行)

ワイヤロープ
(設置検証後⇒本格設置)

車両が受ける衝撃を緩和



国会や各地で国政報告をすると、「日本政府は多額の借金を抱えているが、財政は大丈夫なのか？」といったご質問をたびたびいただきます。今回は、これまで私が得た知識の範囲で、私見もまじえて日本の財政についてTETSU学してみました。



哲史の
TETSU学

日本の財政問題について

Concerns on the National Finance

日本には国・地方合わせて1,000兆円超の借金があり、**日本国政府には800兆円超の借金が存在**します。さらに国は、毎年35兆円前後の借金を新たにしており、**累積の借金は増え続けて**います。

楽観論、悲観論の両論ありますが、理論的には、日本の国債の信用が失墜し、誰からも国債を買ってもらえなくなれば、ギリシャのようにいわゆるデフォルト(経営破綻)の危機を迎えることはあり得ます。

財政再建の足がかりは、円グラフ内の「a」の部分に着目して「事業費」(支出)と「**税金+その他収入**」(収入)の逆転現象を整える、すなわち、「**プライマリーバランス(PB)**」をプラスにすることです。

そのためには大きく3つの方法があります。

- (1)支出(歳出)を減らす、(2)収入(歳入)を増やす、(3)借金の価値を減らす、です。

財政再建に特効薬はなく、(1)、(2)、(3)を上手く組み合わせ合わせた対策を打っていく必要があります。

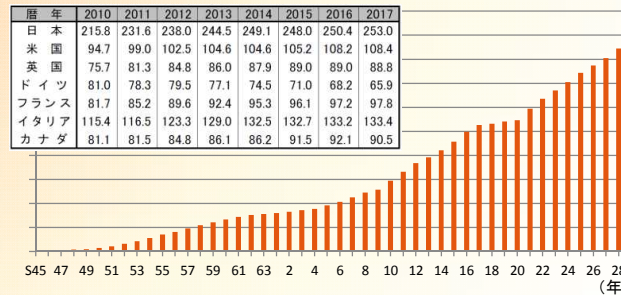
現政権下では、(1)ではむしろ支出を増やしてきていて、(2)については、一時景気好転により**税金増**がありました、消費増税を2度延期し、さらに平成28年度は当初予定より1.7兆円の**税金減**となったこともあって、伸び悩んでいます。(3)は、インフレを起こすことで借金の割合を減らそうとする手法ですが、日銀が主導する**インフレ誘導政策**がほとんど上手くいっていない状況です。

結果、政府の直近の報告では、この間目標としてきた2020年までに**プライマリーバランス(PB)**を黒字化させることが相当困難な状況になったことが明らかになりました。

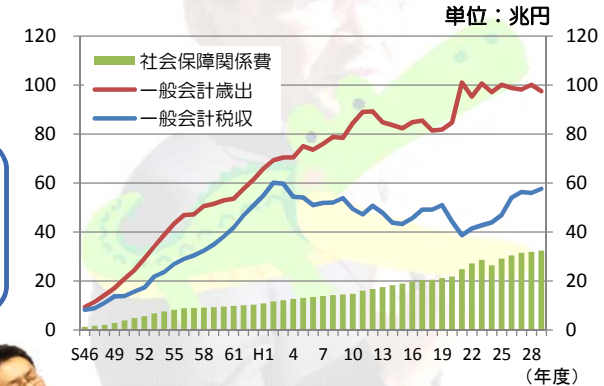
借金をして借金を返している、自転車操業の状態が続いています。

「**プライマリー・バランス(PB)**」を黒字化させるといことは、**まずはこの差「a」(約11兆円)を埋めよう**ということです。

日本の借金の累積状況(兆円)と国際比較(対GDP比、%)



平成29年度の**見込み**税金の約15年分に相当する借金が積み上がっています。

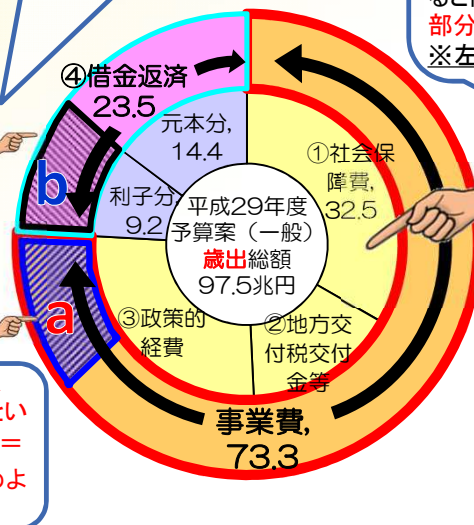


最終的にはこの部分、**利子分**も含めた「b」部分まで黒字化しなければ、借金の増加自体を止めることはできません。

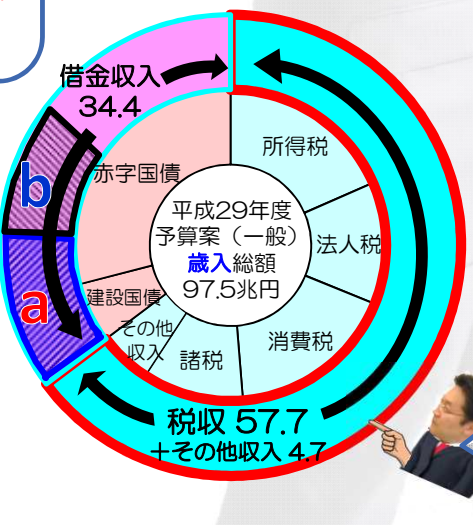
- ①**社会保障費**、②**地方交付税**は必要経費がほとんどで、削減は難しい。
- ③**政策的経費**は、時の政権の色を一番だせる費目であると同時に、**削減しやすい部分**。

税金と歳出の差は、バブル崩壊後の平成初めから開き続けている状態。ワニの口に例えられます。

物価を上げる(インフレを起こす)ことで、全体のパイが大きくなる一方、借金の額は変わらないので、借金の価値を下げることはできます。ただし一方で、**預金の価値**も下がります。



a = 事業費と税金をバランス(プライマリー・バランス)を黒字化させるために必要な額
a+b = 新たに借金を増やさないために必要な額



景気が良くなれば、**所得税**や**法人税**が増え、**税金増**となります。また、**増税**により**税金を増やす手段**もあります。

